

船橋地区漁場造成（碎石覆砂）のアサリ資源に対する効果調査結果

船橋市漁協ではアサリ資源の増大を目指し、天然の石を破碎した碎石を漁場の一定範囲に敷設する碎石覆砂に取り組んでいます。これまでの調査で碎石区ではアサリ稚貝の集積・保護効果や餌料環境（付着珪藻）の改善効果が確認されています。

1 碎石覆砂実施状況

平成 29 年度から令和 2 年度にかけて、以下の 4 ヶ所で碎石覆砂を実施しました（図 1, 表 1）。

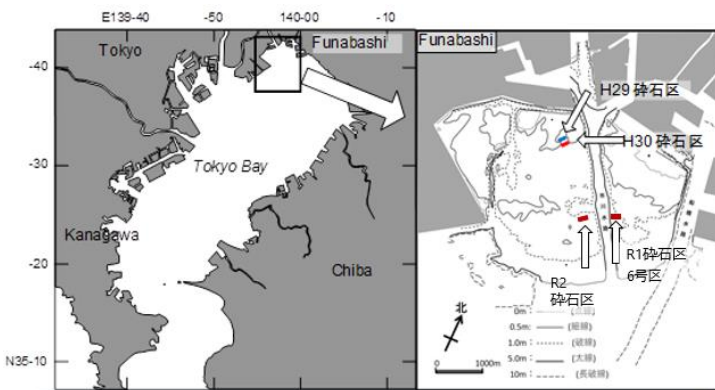


図 1 碎石覆砂実施場所

表 1 碎石覆砂実施状況

試験区	設置時期	規模
H29 碎石区	H29 年 6 月	25×60 m
H30 碎石区	H30 年 6 月	25×60 m
R1 碎石区	R1 年 6 月	25×40 m
R2 碎石区	R2 年 7 月	40×50 m
		(2 か所)

2 今年度の取り組み

令和 3 年 6～9 月には碎石区で約 330 kg のアサリが漁獲されましたが、令和 3 年 9 月以降は資源量の減少により操業は休止しています。碎石区のアサリの最大分布密度は令和 5 年 1～3 月は 150～200 個/m²、令和 6 年 1～2 月にも 180～230 個/m²が維持され、現在も周辺の漁場より高密度で分布していますが、漁獲の再開までは至っていません。

アサリの減少原因としては、碎石の上に 10 cm 程度堆積している砂泥の影響で、碎石の保護効果が十分に機能せず、砂泥内に生息しているアサリが波浪や食害等により減耗している可能性が疑われたため、ポンプや大まきなどの漁具によって砂泥を除去し、碎石を表面に露出させる耕耘を試験的に実施しています。今後は効率的な耕耘手法の検討を進めるとともに、碎石区を網で囲ってアサリを保護する囲い網も併用し資源回復を目指しながら、環境データとアサリ資源量のモニタリング調査を継続していきます。